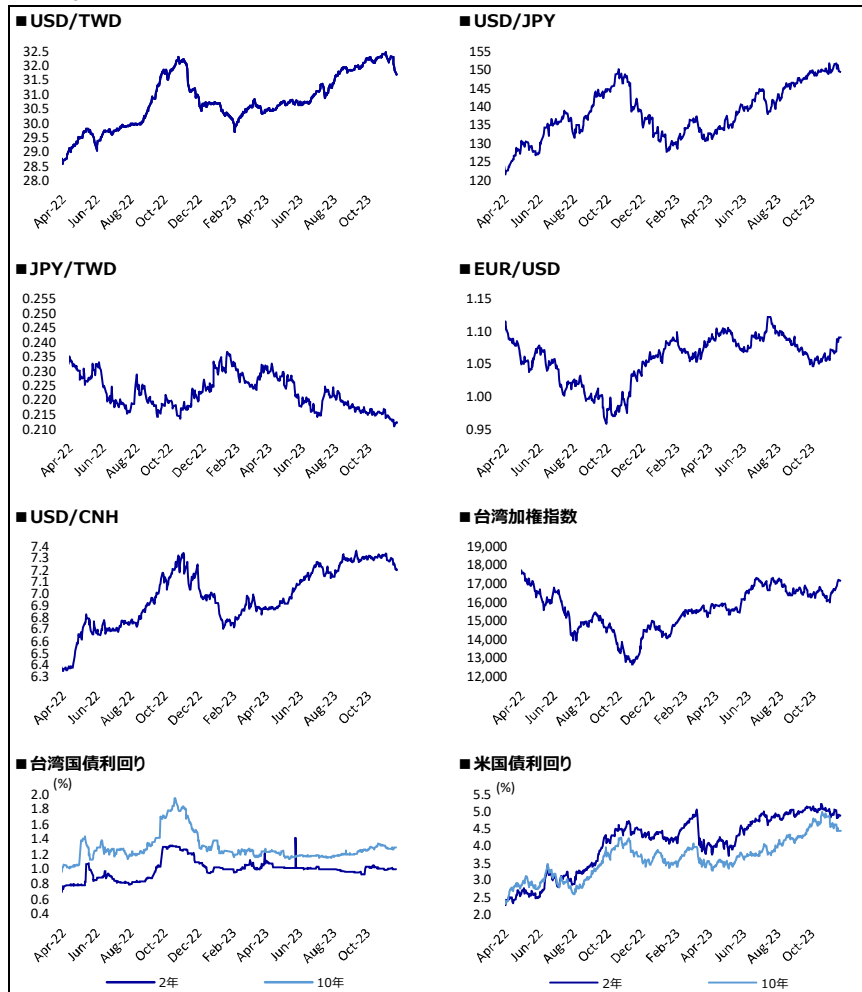


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/13は、32.330でオープン後、米金利が上昇する中、ドル買いが優勢となり一時32.374まで上昇。しかしTSMCの10月売上高が過去最高となったことが報じられると、台湾株価が高値を更新し、リスクセンチメントが改善。台湾ドルが買い戻され、32.33付近で揉み合いとなった。11/14は米10月CPIを控え、32.30を挟み揉み合いとなった。11/15は前日の米10月CPIが弱い結果となったことで、米金利が大幅に低下していたことからドル売りが優勢に。また、台湾株価の上昇が続く中、外国人投資家からの資金流入も台湾ドル買いを後押しし、32.10付近まで下落する展開に。11/16は台湾株への資金流入により台湾ドル買いが進んだが、32.00の節目を目前にドルを買い支える動きが見られ、32.00台前半で揉み合いとなった。11/17は輸出業者による外貨売りが見られた他、台湾株への資金流入が継続していたことで、台湾ドル買いが優勢な展開となり、一時31.831まで下落。最終的には前週比1.5%ドル安台湾ドル高の31.856で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は1,217.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/13は151.50でオープン後、日10月企業物価上昇率が市場予想対比弱い結果となったことを受けて円売りが進み、一時151.92まで上昇。しかし152円の節目を前に為替介入への警戒感が再燃し、上値が抑えられ、151.70近辺で揉み合いとなった。11/14は米10月CPIが市場予想を下回る結果となったことを受け、米金利が大幅に低下していたことから、ドル売りが優勢となり150円台前半まで下落。11/15は海外時間に発表された米10月小売売上高が市場予想を上回る結果となったことや、米地区連銀総裁のデリーより追加利上げの選択肢を排除しないとの発言が聞かれたことで、米金利が上昇しドル買いが優勢となり、151円台前半で推移。11/16は米10月輸入物価が前月対比下落に転じていたことを受けて米金利が低下に転じると、ドル売り優勢な展開となり、150円台後半で推移。11/17は英国10月小売売上高が市場予想を下回り、弱い結果となったことを受けてリスクセンチメントが悪化すると、ドル売りが進み、一時149.20まで下落。引けにかけては下落幅を縮小し、最終的には前週比1.3%ドル安円高の149.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.450-31.750
今週は下落を見込む。台湾株価が堅調に推移する中、外国人投資家からの投資資金流入が期待され、台湾ドルは買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.00-150.00
今週は上値の重い展開を見込む。米10月CPIが市場予想を下回る結果となったことで米金利上昇余地が限定的となる中、ドル円は上値が重くなりやすいであろう。

今週の予定

11/20 (MON)	台湾10月輸出受注
11/21 (TUE)	
11/22 (WED)	台湾10月失業率、米10月耐久財消費支出
11/23 (THU)	台湾10月製造業生産
11/24 (FRI)	日10月CPI、米11月景況感PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。